

長岡京左京三条四坊六町跡

発掘調査現地説明会資料

2013(平成25)年5月25日

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所在地：京都市伏見区久我西出町9-1、9-2

調査期間：平成25年4月15日～6月14日（予定）

調査面積：約1,200m²

はじめに

長岡京は、延暦3年（784）から延暦13年（794）までの10年間続いた都です。

今回の調査地は、長岡京の東部、左京三条四坊六町という宅地に位置します。周辺の調査では、都のなかを縦横に通る規格的な条坊制に基づく道路や宅地が広がっていたことが明らかになり、宅地内では建物や井戸跡などがみつかっています。

また、下層には、縄文時代から古墳時代の遺跡が存在することも明らかになっています。

調査の概要

今回の調査では、中世の耕作に伴う溝、長岡京期の建物群がみつかりました。

長岡京期の遺構には、掘立柱建物4棟、柱列2条、溝3条などがあります。掘立柱建物は、六町の宅地内の北西部に規格性をもって配置されています。塀や柵の跡と考えられる柱列は、東西棟掘立柱建物と宅地内西側を区画する施設と考えられます。

建物1 主殿と考えられる東西棟の掘立柱建物で、東西5間×南北2間の身舎の北面と南面に庇が付きます。建物規模は東西約12.0m、南北約10.0m、柱穴の大きさは一辺0.6～0.8mあります。柱穴内には長径0.3m程度の石（凝灰岩やチャート）が詰まった状態で見つかっています。

建物2 建物1の北にあり、後殿と考えられる東西棟の掘立柱建物で、東西5間×南北2間の身舎の南面に庇が付きます。建物規模は東西約13.5m、南北約7.6mあります。柱穴の大きさは、一辺0.6～0.8mあります。柱径は0.3m前後です。当時の柱根がそのまま残ったものや、柱穴内に土器を納めるもの、緑釉陶器の甗こしきが出土したものなどがあります。

建物3 建物2の北西約7mに位置する掘立柱建物です。南東隅を検出しましたが、大半は調査区外にあり、建物の規模は不明です。柱穴の大きさは、一辺0.8m前後あります。

建物4 建物2の西約6.5mに位置する掘立柱建物です。東側柱列を検出しましたが、大半は調査区外にあり、建物の規模は不明です。

柱列1 建物1の西約2.7mに位置する柱7基からなる柱列です。南北約11.4mあり、柱列の南端と建物1の南側柱が一致することから、建物1に伴う柵と考えられます。

柱列2 柱列1の西約2.7mに位置する柱13基からなる柱列です。南北約22.8mあり、柱列1の作り替えと考えられます。南端は、おおよそこの六町の南北を2分する位置にあたります。

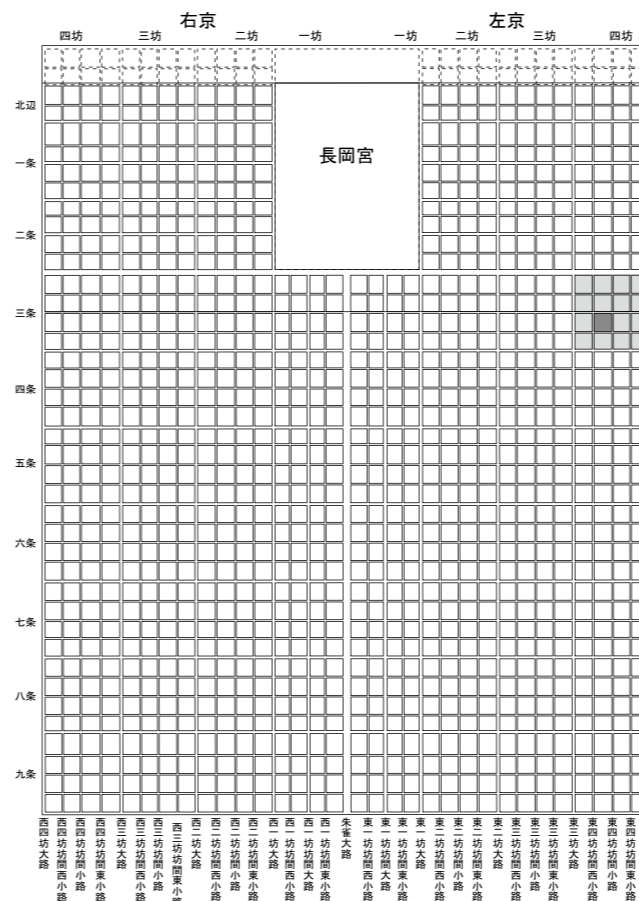


図1 長岡京条坊復元図と調査位置



図2 調査位置図・周辺の過去の調査地（1：5,000）

溝68・69 調査区南部で検出した東西方向に延長する溝で、南側の溝はおおよそこの宅地を南北に2分する位置にあたります。宅地内の道路（小径）の側溝と考えられます。

まとめ

今回発見された宅地は、1町の1/4を占有すること、京内において京の中心朱雀大路から離れた場所にあたっていることから、官人の邸宅であろうと考えられます。

今回の調査では、長岡京における官人の邸宅の建物構造が明らかになり、また出土遺物からその暮らしぶりを知る手がかりを得ることができました。

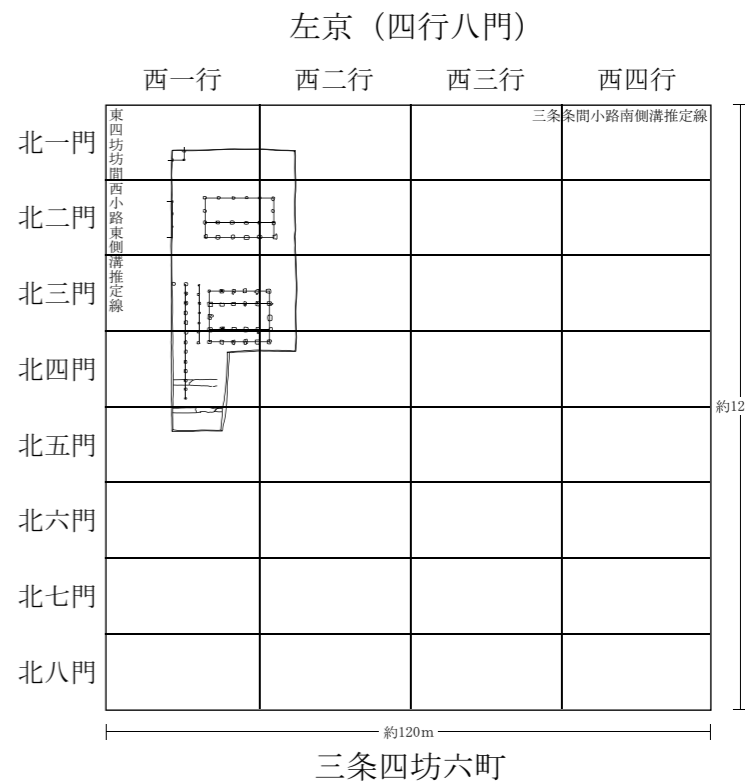


図3 四行八門制を概念図とした調査区の位置

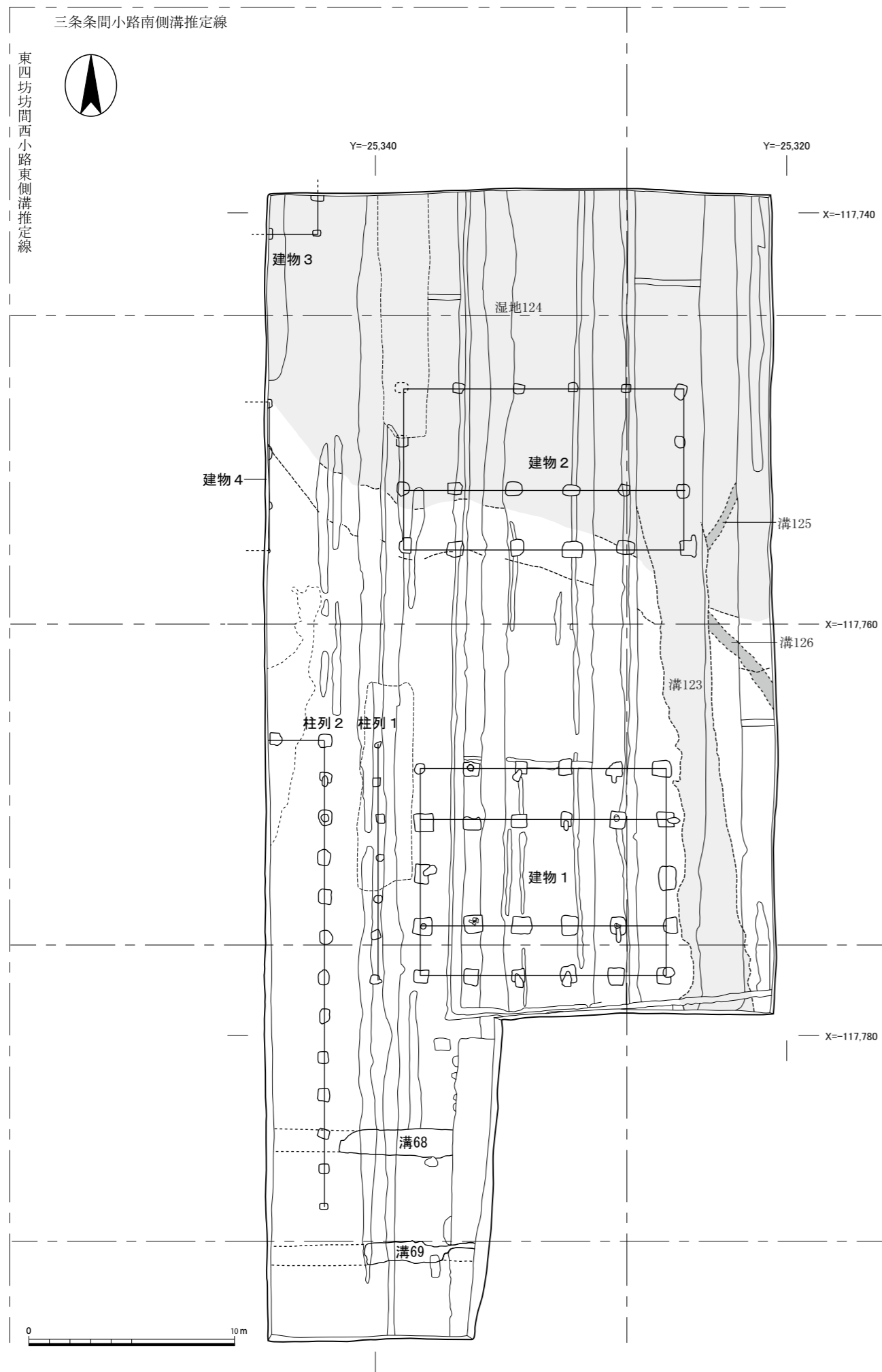


図4 遺構平面図 (1:250)



写真1 遺構全景 (北から)



写真2 建物1 (西から)